

第2回 愛知県海岸保全基本計画検討委員会 議事要旨

日時：平成26年11月27日(木)10時～正午

場所：ホテル名古屋ガーデンパレス

1. 開会

2. 事務局挨拶

3. 委員長挨拶

4. 議題

技術部会の報告について

第1回検討委員会の主な意見とその対応について

第1章 海岸の保全に関する基本的な事項(総論)の変更について

5. 質疑

技術部会の報告について

○高潮防護関連

(委員意見)

- ・高潮浸水想定における最大クラスとは、フィリピンで発生したスーパー台風など、過去に発生したことがないようなものが、最大クラスになるべきではないか。最大クラスの表現の仕方を考えてほしい。
- ・「愛知県沿岸部における津波・高潮対策検討会」(H23～H24) (以下「高潮検討会」と記述)で検討した、伊勢湾台風級の台風が、沿岸毎に最も影響が大きくなるコースを通った場合の高潮について、位置付けを検討してほしい。
- ・高潮における天文潮位を施設整備、高潮浸水想定ともに台風期平均満潮位としているが、これは朔望平均満潮位とすべきではないか。

(事務局回答)

- ・最大クラスの台風規模については、知見が少ないということもあり、今回の高潮浸水想定における台風規模は、合理的に説明できる台風として室戸台風級を選定した。最大クラスの高潮に対する表現方法については、検討する。
- ・高潮検討会における、伊勢湾台風級の台風が、沿岸毎に最も影響が大きくなるコースを通った場合の高潮については、長期的な目標として整理する。

- ・当面の施設整備の目標における天文潮位は、これまでどおり台風期平均満潮位を対象としていきたい。また、高潮浸水想定においては、天文潮位を変えることよりも、沿岸毎に最も影響が大きくなるコースを設定することで、浸水域が大きく変わるという結論が出ている。なお、天文潮位を朔望平均満潮位とした高潮浸水想定も含め、「高潮検討会」で検討した全ての検討ケースの結果を市町村へ提供している。

(委員補足説明)

- ・「高潮検討会」では、現在の知見で想定される最大クラスの高潮として、室戸台風級の台風が、沿岸毎に最も影響が大きくなるコースを通った場合の高潮を選定し、まとめている。

(委員意見)

- ・高潮浸水想定 of 堤防条件は破堤しない条件か。

(事務局回答)

- ・高潮浸水想定 of 堤防条件は、破堤しないとしている。

□海岸の保全に関する基本的な事項の変更について

(委員意見)

- ・渥美半島先端の低平地は、既存の防護施設、海岸防災林の強化、国道のかさ上げ等、複合的な組み合わせにより、関係部局が一体となった多重防御の施設整備を計画へ位置付けてほしい。
- ・海岸保全の検討ではあるが、河川、港湾の各管理者の連携についても検討をしてほしい。
- ・堤防など施設整備をすることにより、眺望や景観が一変してしまう。そのあたりの配慮が欠けているのでは。

(事務局回答)

- ・渥美半島先端の低平地は、多重防御の考え方が適切であると思うので、関連施設の一体的な整備についてを計画へ記載するよう検討していきたい。
- ・各管理者との連携も重要なことなので計画への記載を検討する。
- ・景観への配慮については、現行基本計画にも位置付けられており、今後も踏襲していく。

(委員補足説明)

- ・今回の設計津波の水位設定は、地域海岸を細分化することで、必要最低限の高さを設定するようにしており、極力、現状の景観や眺望に大きな影響が出ないようにも検討している。

以上